

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
<p><b>豊かな心を持ち 自ら学び たくましくいきる清泉の子を育成する</b></p> <p>○すすんで学ぶ子ども ○思いやりのある子ども ○やりぬく子ども ～わくわく・きらきら・笑顔が輝く学校づくり～</p>	<p>(1)人間関係の改善・深化を図りながら、豊かな心・健やかな体を育成する。 (2)基礎学力の定着と意欲的・自主的に取り組む学習態度を育てる。 (3)教職員の指導力の向上と授業改善に努め、教育力のある学校をつくる。 (4)学校を地域に開き、信頼される学校を目指す。 (5)清泉スタンダードのさらなる定着を図る。①手をまっすぐ挙げて発表しよう。②呼ばれたら「はい」と返事をしよう。 ③だまって話す人の方を向いて聞こう。④机の上(中・ロッカー)をきれいにしよう。⑤次の時間の用意をしてから遊びに行こう。</p>

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】全国(6年生)</p> <p>○算数Aについては、正答率が県平均、全国平均をかなり上回った。 ○算数Bについては正答率が県平均と同じである。 ○国語ABについては正答率が県平均、全国平均より下回ったがその差はわずかである。 ○国語については、課題であった「条件に合わせて文章を書くこと」ができるようになってきた。 ○算数では「示された資料から関連付けて式を導き解答していくこと」に課題がある。 ○国語、算数ともに無回答率が0%と問題を粘り強く解こうという姿勢が見られた。 県(3～5年生)</p> <p>○国語については5年生が、算数については4年生が県・全国の平均正答率を上回った。その他については下回った。 ○国語では、高学年になるほど「言語についての知識・理解・技能」の正答率が高くなっている。逆に、「話す聞く能力」や「話すこと・書くこと」に関する 問題を苦手とする児童が多い。 ○算数では「数と計算」や「量と測定」での基礎にあたる領域(区分)の正答率は上がってきてはいるものの活用区分では、県・全国との差がある。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>○「国語・算数の授業がよくわかる。」の割合が、県や全国に比べても高い。 ○「先生があなたのよいところを認めてくれますか」に当てはまる児童の割合もとても高く学習意欲への向上へつながっている。 ○「自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることを難しいと感じる児童の割合」が県や全国と比べても低い。そして、「友達の前で自分の考えや意見を発表すること」を得意とする児童の割合が高い。 ○平日、ゲーム(スマートフォン)をしている割合も低く、ルールを決めて守っているという意識が高い。</p>

成果	課題
<p>○朝学習の時間(15分間)に、現学年の漢字の読み書き、四則計算等、基礎基本学習を繰り返し取り組むことで学習の定着につながった。 ○4～6年生は週1回、放課後算数教室の時間を設け、全学年までの算数の基礎問題を取り組み定着を図ってきた。 ○授業の始まりや宿題等で問題データベースを活用して学習してきたことで基礎問題の定着に役立っている。 ○校内研修等で、児童の学習状況の交流を知り、どういった授業づくりを進めていけば良いのかを研究してきたことが成果へとつながってきた。 ○春休みには、どの学年も1年間学習してきたことが復習できるワーク等の宿題を出すことで次年度へつながって行く効果がでている。</p>	<p>○文章を読みとり、条件に合った文章を書いたり、計算式を導きだし立式したりするなど、国語・算数とも活用型の問題を苦手とする児童が多い。また、答えは～だろうとある程度理解はできているものの、それを文章化することが難しく、解答までに時間がかかってしまう。 ○国語では話し合い活動や手紙の書き方、俳句など幅広い知識の定着が必要である。また、問題文を正しく読み取り、重要語句を見つけることで解答へつなげていくことが十分できていない児童が多い。 ○算数では、数直線上における位置関係(特に1より小さい場合)を苦手としている児童の割合が高い。</p>

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
現学年までに学習する漢字の読み書きができる。	それぞれの学年末まで	全学年、平均正答率90パーセント以上	・データベースを全学年で活用したり、朝学習でのプリント学習 授業の中で前時に学習したこと振り返り、単元終了後のテスト、学期末ごとの評価テストを行ったりする。	毎日の宿題として漢字練習やデータベースの活用をしたことで読み書きができるようになった児童が増えた。秋チェック漢字読み書き平均正答率82.5%	B	1年間、宿題やデータベースの活用等に取り組んだことで、漢字の読み書きができるようになった児童が増えた。各学年の年度末漢字テスト平均正答率91.5%	A	今年度の取り組みを継続していきながら、前学年までの漢字についても、朝学習等を活用しながら反復練習をさせていく。
現学年までに学習する、四則混合計算、空位のある計算、波及的繰り下がりの計算問題ができる。	それぞれの学年末まで	全学年、平均正答率90パーセント以上	・データベースを全学年で活用したり、朝学習でのプリント学習、授業の中で前時に学習したこと振り返り、単元終了後のテスト、学期末ごとの評価テストを行ったりする。	朝学習や宿題、放課後算数教室など多くの場面で四則混合計算などの問題を解かせていった結果、以前よりミスが減ってきた。秋チェック平均正答率80.6%	B	1年間、継続して四則混合計算などの問題を解かせていった結果、以前よりミスが減ってきた。年度末テスト、高学年平均正答率88%	B	次年度も、朝学習や放課後算数教室、宿題等で四則計算を中心に取り組んでいく。特に、小数の加減法は位取りを間違いない児童が多いので重点的に取り組んでいく。
考えて「書く」こと、文章(問題)を読んで「書く」ことができるようにする。	それぞれの学年末まで	全学年、ノートやプリントに考えや振り返り、解答を文章で書くことができる。	・授業中の「まとめ」や「振り返り」を児童に考えさせる時間の確保。・書いたことを発表させ共有させたり、書き方の紹介をさせたりする。・週末課題として、記述問題に取り組ませる。(授業改革推進委員と連携して)	「まとめ」を書かせる授業が定着してきた。4年生以上は「週末チャレンジ」に取り組む、少しずつではあるが記述問題になれてきたようだ。秋チェックB問題平均正答率56.	C	「まとめ」「わかったこと」などを書かせる授業づくりを通して、自分の言葉で記入できる児童が増えた。「週末チャレンジ」では、よい記入例を紹介したり、授業改革推進委員の先生に解説をしてもらったりして記述方法の指導を進めていった。	C	自分の言葉で、書いたり、発表したりすることを苦手とする児童がまだ多いので、その機会をしっかりと設け、繰り返し行うことで定着を図る。また、校内研修のテーマと関連づけ全職員で達成状況等、確認をしながら進めていく。

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」E:目標を達成できなかった(30%未満)

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
<p>○県・全国学力学習状況調査の分析を基に、中学校ブロックでの学習状況の交流を進める。 ○小中間による授業公開並びに児童生徒の情報交換を行う。 ○中学校から小学校6年生への出前授業の取り組み。 ○チャイムの合図・そうじ・あいさつなど落ち着いた学校生活を送るためのルールの徹底。</p>	<p>○通信、懇談、学校評議委員会などで、子どもたちの様子を伝え、学校としてどんな子どもに育てていきたいのか、しっかり伝える。 ○母親委員との協力で、早寝、早起き、朝ご飯の呼びかけをしたり、教育を語る会で子育てに関する講演会等を行ったりすることで家庭・地域との連携を深める。</p>